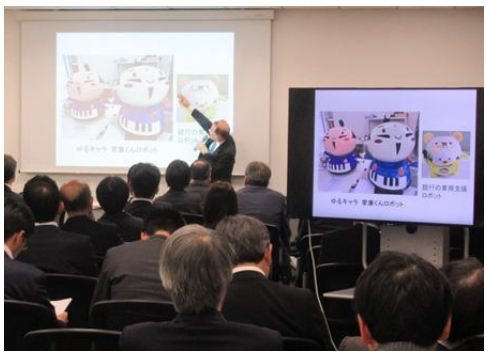
会員連携コミュニティ主催 AI/IoT 活用ビジネス交流セミナー開催

会員連携コミュニティ（代表幹事：大津崇（株）システム計画研究所代表取締役）主催による AI/IoT 活用ビジネス交流セミナーが、10 月 17 日午後、JISA 会議室で開催された。5 月の IoT セミナーに続くビジネス交流セミナー第 2 弾として企画された。

今回は、AI の中でも音声認識機能を有するロボホンやチャーピーを展示するとともに、AI 利用についての事例を織り込みつつ、今後の情報ビジネスにおいて AI/IoT をどのように活用できるか検討するきっかけを提供することを目的とした。

参加者は 70 名で、出展・プレゼンは（株）NTT データ SBC、（株）シーエスイー、（株）CAI メディアの 3 社。連携コミュニティ・サブグループのエプソンアヴァシス・矢野亜耶氏の司会でプログラムは進行した。



セミナーは、まず、大津代表コミュニティの開会挨拶が行われた後、IoT の具体的活用方法を提案する、という観点で「防災システムと IoT」について、日本防災教育中央会・仲西代表の講演が行われた。防災システムの発想が古くから変わっておらず、ラスト 1 マイルのところを変えて行くのに IoT が有効なことを提案していた。

続いて、「AI ビジネスをどう進めていくか」について、人工知能ビジネス創出協会（AIB）・前理事より、AIB の活動をもとに報告が行われた。「明文化できる作業は通常のプログラミングで十分自動化できる。顔認識など人間は容易に判別できるが説明が難しい領域は AI に学習させることで効率化が期待できる。解決すべき法的問題が多数ある」等の指摘があった。

事例発表では東京海上日動システムズ山崎ビジネス本部長代理による「東京海上日動における AI 利用の現状と可能性」について報告が行われた。まずワトソン(R)を利用して社内・代理店向け問合せ対応システムを構築した事例が報告された。その中で、工数の半分以上が AI に正しいデータを蓄積することに費やされたとの指摘があった。また IoT 活用状況として、車に設置されるドライブレコーダーから運転状況のデータを収集し、自己処理への活用が行われていることも報告された。

続く事例発表では、AI 認識機能を持つロボット・ロボホン、Charpy の紹介が、NTT データ SBC 先進技術センター・鵜飼所長、CAI メディア福地社長によってそれぞれ行われた。ロボホンを通じて家電のコントロールができること、チャーピーは音声認識とクラウドにより英会話支援機能などの紹介と展示が行われた。

最後に、セミナーの企画・運営に協力している会員連携サブ・グループの女性メンバー（網屋・西山、エプソンアヴァシス・田中、CTC システムマネジメント・太田、リンクレア・中島の 4 氏）によるパネルディスカッション「女性の働き方を AI とともに魅力的にする」が行われた。プライベートの時間を増やしたい、会議時間が長すぎる、などの指摘があり、AI を活用すれば効率的に改善できるのはないかと提案が行われ、会場ではうなずいている参加者も多く見られた。

セミナー終了後に、ネットワーキングと展示見学が行われた。ロボホンからの音声入力により、ラジコンデモカーが、目的地まで障害物を避けつつ到着する（プログラミングによる自動運転）展示が（株）シー・エス・イーによって行われ、話題を提供していた。

(山本)